

シラチャ校だより

泰日協会学校
シラチャ校

1 10 09



中学部校外学習を終えて

学校のカリキュラムの中に「総合的な学習の時間」というものがあります。子どもたちに「生きる力」を育むためにつくられた時間です。具体的にいうと「生きる力」とは、自ら課題を発見し、問題を解決する力、情報を活用し、自分の意志を伝達する力、社会と協調する力などを指します。国際理解、情報、環境、福祉・健康などさまざまな分野に関する学習を行う時間で、学校の創意工夫が進めていきます。

シラチャ校中学部では、「タイで生活していて感じること」を意見交換するところから始めました。その中でタイの環境問題、ゴミ処理に関する疑問が浮かび上がってきました。これにテーマをしぼり、学習を進めていくことにしました。一学期は、子どもたちがそれぞれの出身都道府県のゴミ処理や環境問題への取り組みのようすを調べました。夏休みには、自分の家から出るゴミがどう処理されているのかなどを調査する活動も行いました。そうした中から出てきた疑問、「タイのゴミ処理はどう行われているのだろうか?」「シラチャの街を自分たちできれいにしていく方法はないだろうか?」を、二学期で探求していくこととしました。そうした中で今回、Fuji Xerox Eco-Manufacturing 社と Waste Management Siam 社を校外学習で訪問させて頂くことになりました。2社は、それぞれの立場で環境問題に力を入れた経営をされており、われわれの学習の主旨を理解し、協力頂けることとなったからです。

今回の校外学習の大きな目的は二つありました。一つは「シラチャの街を自分たちできれいにしていく方法はないだろうか?」という学習課題にむけて、企業の取り組みを学んだ上で何か手がかりを見つけ出すということです。そのため、ただ工場・施設を見学するだけにとどまらず、会社の方から環境への取り組みについて講義を受けたり、コミュニケーションミーティングという形で議論したりする時間を設定しました。2社とも環境問題に対する熱意や努力、技術力の高さは並々ならぬものがあり、子どもたちは大きな刺激を受けました。そして新たな疑問を発見し、環境問題の幅の広さと奥深さを強く感じ、自分たちの取り組みをより具体的に考えるきっかけになりました。目的のもう一つは、学校生活の中で身につけてきた力を、学校の外に出て、人との関わりの中で発揮するということです。中学部は現在10人です。限られた人間関係の中で不足しがちなコミュニケーション能力を、生徒朝会で全員がスピーチをしたり、学活でディベートを行ったりして磨いてきました。今回は、そうしたことを外部の方と接する中で発揮する機会となりました。どんどん質問したり意見を言ったりして、自分たちの考えていることを伝えようとする意欲が感じられ、力が高まっていることを実感できました。子どもたちは、自分たちのやってきたことを発揮でき、自信を深めることができました。

以上のように今回の校外学習の取り組みを通じて、学習課題に対する方向性を見つけ、自分たちの取り組みに自信を深められたことは、子どもたちにとってとても大きな成果でした。そして今後の学習活動の一つとして、「シラチャの公園の清掃活動」をすることを話し合っ決めました。シラチャ市に協力をお願いすることも考えています。このような子どもたちの主体的な活動がさらに発展していくよう、わたしたち教員も創意工夫し、尽力していきます。



〈Waste Management Siam 社にて〉